北九州工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	0024	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	生産デザイン工学科（共通科目）	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『明解　世界史A』（帝国書院、2016年）、『明解世界史図説　エスカリエ　十訂版』（帝国書院、2018年）。		
担当教員	大熊 智之		

到達目標

1.近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
2.帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
3.第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
4.19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要をおおむね理解している。	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程についての理解が十分でない。
評価項目2	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要についておおむね理解している。	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向についての理解が十分でない。
評価項目3	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、おおむね理解している。	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係についての理解が十分でない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
学習・教育到達度目標 F① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
学習・教育到達度目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。

教育方法等

概要	諸君はこれからさまざまな形で社会とかかわっていく。その際には、自分自身が歴史のなかに生きているという感覚を持つことが大切である。歴史を学ぶことで、現代社会が、そして自分自身の行動や考えがいかに歴史的な条件に規定されているかを実感してほしい。同時に、過去の人びとが、その人の生きた時代的な条件とどのように向き合い、それと格闘してきたのか、その経験に寄り添い、学んでほしい。そうすることで、自分自身の日々の営みが社会を変え、歴史を作りうるという感覚を持って、主体的に社会に参画することができるからである。
授業の進め方・方法	・教科書・ノート・図説を毎回準備すること。 ・本講義と関連する時事の話題を適宜紹介する。
注意点	・ノートには板書されたことだけでなく、それ以外の講義内容を聴き取ってできるだけメモすること。 ・必要に応じてプリントを配布するのでなくさないようにすること。 ・課題の提示など授業にかんする連絡は基本的にblackboardを通して行うので随時確認すること。 ・現代の日本や世界の動きに対して常に関心を持って授業に参加されたい。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	
		2週	大航海時代と新たな国家の形成（１）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		3週	大航海時代と新たな国家の形成（２）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		4週	ヨーロッパとアメリカの諸革命（１）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		5週	ヨーロッパとアメリカの諸革命（２）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		6週	ヨーロッパとアメリカの諸革命（３）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		7週	自由主義・ナショナリズムの進展（１）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	自由主義・ナショナリズムの進展（２）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		10週	アジア諸国の動揺（１）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		11週	アジア諸国の動揺（２）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。
		12週	東アジアの大変動（１）	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。

		13週	東アジアの大変動（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		14週	現代につながる社会の形成	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		15週	期末試験	
		16週	試験解説	
後期	3rdQ	1週	第一次世界大戦がもたらしたもの（１）	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		2週	第一次世界大戦がもたらしたもの（２）	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		3週	”民族自決”を求めて（１）	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		4週	”民族自決”を求めて（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		5週	経済危機から第二次世界大戦へ（１）	帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		6週	経済危機から第二次世界大戦へ（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		7週	冷たい戦争の時代（１）	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	冷たい戦争の時代（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		10週	冷戦終結への道のり（１）	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
		11週	冷戦終結への道のり（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		12週	地球社会への歩み（１）	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
		13週	地球社会への歩み（２）	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。
		14週	持続可能な社会をめざして	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。
		15週	定期試験	
		16週	試験解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
		グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	

				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	

評価割合

	試験	課題	課題テスト	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
	0	0	0	0